

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 70
平成 24 年

案内 平成 24 年度全国大会

発行 日本庭園学会 (会長 藤井英二郎)
〒 150-0041 東京都渋谷区神南 1-20-1
(有) 造園会館気付
TEL(03)-3462-2850 FAX 03-3464-8465
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>



平成24年度 関西大会 スケジュール

平成24年6月9日(土)

会場：東京農業大学世田谷キャンパス
11号館3階 第2製図室

【研究発表会】

- 9:00 受付開始
- 9:50 研究発表会 午前の部 開始
- 11:50 研究発表会 午前の部 終了
昼食休憩/理事会
- 13:00 総会
- 13:30 日本庭園学会賞受賞者講演
研究発表会 午後の部 開始
- 16:30 研究発表会 午後の部 終了
- 17:00 情報交換会

平成23年6月10日(日)

会場：フォーシーズンズホテル椿山荘 東京
4階 会議場 アンフィシアター)

【現地検討会】

- 10:00 現地検討会 受付開始
- 10:30 現地検討会 開始
- 11:30 現地検討会 終了

【シンポジウム】

- 12:30 シンポジウム 受付開始
- 13:00 シンポジウム 開会
- 16:30 シンポジウム 閉会

■会費(2日間)

学会員(一般)：2,000円(資料代1,000円を含みます)

非会員：3,000円(資料代1,000円を含みます)

※学生は、会員の場合1,500円、非会員の場合は2,500円とします(ともに資料代を含みます)。

※大会参加費については、1日のみの参加でも上記金額を徴収します。

情報交換会(6/9)：3,000円(私費による参加を原則といたします)

■問い合わせ 栗野 隆(日本庭園学会企画委員会全国大会運営担当、東京農業大学地域環境科学部造園科学科)

電話：03-5477-2428 メール：t3awano@nodai.ac.jp

(お問い合わせは、極力、電子メールにてお願いいたします。)



■交通案内(椿山荘)

①正面玄関

江戸川橋駅1a出口から地上に出て、神田川の橋(江戸川橋)を渡り、約30m先ひとつめの信号(八百屋の角)を左折。道なり(坂道)に約500m 徒歩約10分

②冠木門江戸川橋駅1a出口から地上に出て、神田川の橋(江戸川橋)を渡り公園を左折。神田川沿いに直進(約500m) / 徒歩約10分

【開門時間】10:00～21:30

③練馬車庫行の都営バス(白61)

バス停(江戸川橋)より乗車 / 料金200円 / 時間約3分

1日目 研究発表会 発表要旨

- 9:00 受付開始 (11号館3階ロビー)
- 9:30-9:40 開会挨拶
会長 藤井英二郎
- 9:40-9:50 大会プログラム等説明
全国大会運営担当 栗野隆

研究発表会 (午前の部)

(9:50-10:20)

1. 海外の日本庭園をめぐる近年の動向

鈴木 誠・服部 勉・牧田 直子 (東京農業大学造園科学科・東京農業大学国際日本庭園研究センター)

概要：この報告では主として海外の公開されている公共的日本庭園に関し、今世紀2001年以降の関連情報を整理してその動向についてまとめた。個別の庭園の設置数は年々増加傾向を示しており、従来から指摘されている維持管理、運営管理に係わる諸課題も顕在化している、一方2011年には北米日本庭園協会が設立され、また東京農業大学国際日本庭園研究センターも発足し、日本国外の日本庭園に関する情報の共有と、共有した課題の解決に向けた協働体制が強化されつつある。

(10:20~10:50)

2. 米国マンザナル日系人強制収容所内の庭園

相田 諭希典

概要：第二次世界大戦時、敵性外国人とみなされた約1万人の日系アメリカ人が、カリフォルニア州郊外のマンザナル収容所に、数年間強制収容された。劣悪な生活環境改善のために、所内には多くの庭園が造成されたが、終戦後の閉所に伴い、それらは放置された。1992年に当収容所が国定史跡に指定されて以来、国立公園局により、これまでに主要な8ヶ所の庭園が発掘・保存され、現在も進行中である。本稿では、今年4月の現地訪問をもとに、庭園の特性、発掘の現況や課題を報告する。

(10:50-11:20)

3. 中国庭園に及ぼした文学と絵画の影響

河原 武敏

概要：庭園が文学や絵画と同様に芸術作品と認められるのは、凝縮した美意識が造形されているからである。中でも中国庭園は園主の個性的表現が重視され、それが文学と絵画の論理を以って、“意境”と“詩情画意”なる言葉で成り立っている。本文はその論拠となる諸説を集約し例を挙げ、その考察を試みるものである。その内容は日本の伝統庭園技法と深いかかわりのあることが知られて興味深い。

(11:20-11:50)

4. 高麗朝における喫茶の庭

中村 幸 (京都造形芸術大学)

概要：12世紀の高麗朝では、王侯貴族らに喫茶習俗が開花し、水辺の亭は喫茶の場であったことが指摘されているが、その実態は不明である。高麗王の私的な遊興の喫茶と、官僚らの喫茶の考察により、それらの景観は、白居易や蘇軾らにみる自然観への憧憬から、隠者の住まう江湖が一つの模範とされていた。さらにこの展開には異域との交流が指摘できる。こうした展開とは、それ以前の王朝の遊興とは異なる、社会性と自然観との均衡の思想を背景に持つ、隠逸的な仮構的景観が遊興に採り入れられ、体制側の庭園に定着する転機と捉えることができよう。

昼食休憩／理事会・総会等

11:50-13:00 昼食休憩／理事会

13:00-13:30 総会

13:30-14:30 日本庭園学会賞受賞者講演

研究発表会 (午後の部)

(14:30-15:00)

5. 水前寺成趣園の観光地としての構成

岡島 直方 (南九州大学環境園芸学部)

概要：江戸時代初期につくられた同庭園は、現在に至るまでに敷地利用形態上の様々な変化を経験してきた。戦後においての大きな変化の一つは、管理主体が熊本市

から出水神社に返還されたことである。この前後において同庭園ではどのような変化が見られたか、また同庭園の景の視点場はどのように活用されているかなどについてまとめる。

(15:00-15:30)

6. 医療法人式場病院における病棟と庭の関係に関する考察

今井 由江 (千葉大学大学院園芸学研究科)

概要：精神科・神経科専門病院である医療法人式場病院の昭和30年に建築された病棟内部と周辺の庭について2011年より詳細な調査を行うことができた。この調査から、ファン・ゴッホの研究者であり、また柳宗悦らの民芸運動にも深く関わった式場隆三郎による病棟とその周辺の庭のデザインについて分析・考察した。

(15:30-16:00)

7. 成田山公園の設計と構成に関する研究

吉岡 賢人

概要：成田山公園は千葉県成田市成田山新勝寺の境内に併設されてきた公園であり、この成田山公園の概略を示すと次のようになる。『成田山史』によると、成田山境内には元々、現在の成田山公園が竣工する以前から信徒の慰安を図るための施設として成田山花園があったとされている。この花園は明治10年に照輪上人によって創設されたもので、漸次拡張されて明治20年には当時

の成田中学校裏手まで広がったとされている。大正4年、石川僧正は従来の成田山花園を一新して理想的な一大公園とする計画を立て、その設計を千葉高等園芸学校の講師であった林修巳に囑託し、その後11年の歳月をかけて昭和3年に竣工したものが、現在の成田山公園である。本研究は昭和3年に竣工した成田山公園の設計と構成について考察し、林の設計内容を明らかにする事を目的とする。

(16:00-16:30)

8. 『名園五十種』に記された「澁澤邸の別園」に関して 正田実知彦 (福岡県教育庁総務部文化財保護課)

概要：明治43年(1910)、近藤正一によって記された『名園五十種』には、「澁澤邸の別園」と題した庭園が掲載されている。本庭園は、澁沢栄一(1840-1931)が造営した暖依村荘庭園(東京都北区)とは別の庭園であり、その所在地をはじめ多くの点で謎が多い。そこで今回、『名園五十種』の内容や、澁沢栄一の日記に残された「別園」の記録、関係者への聞き取り調査等を頼りに、本庭園の所在地や庭園意匠の特徴、建物の来歴などの一端を明らかにした。

16:30-16:40 閉会挨拶

17:00-19:00 情報交換会



研究発表会 会場アクセスマップ

2日目 シンポジウム 「椿山荘の文化と庭園」

これまで日本庭園学会では、「近代の日本庭園」（平成17）、「庭園の国際交流」（平成18）、「旧古河庭園と近代の庭園」（平成20）、「戸定邸と千葉大学園芸学部松戸キャンパス」（平成21）などの大会企画テーマにおいて、継続的に近代庭園の検討を積み重ねてきました。本大会では、これまでの検討の延長線上に位置づけるものとして、近代庭園の代表例のひとつである椿山荘庭園を取り上げます。

椿山荘庭園は、特に自然主義の観点から作庭をおこなった山縣有朋の目白本邸の庭園として明治期に誕生し、大正期には近代数寄者のひとりである藤田平太郎に引き継がれ、流れ、池などの地割構成や、さまざまな石造美術品を庭園内にとどめています。

本シンポジウムでは、椿山荘庭園の構想、意匠、特徴について検討し、近代庭園史における意味を探るものとします。

現地検討会（午前の部）（希望者のみ参加受付）

■受付場所：椿山荘庭園 三重塔前

10：00-10：30 受付開始

10：30-11：30 椿山荘庭園現地検討会

シンポジウム（午後の部）

■受付場所：フォーシーズンズホテル椿山荘東京
4階 アンフィシアター

12：30-13：00 シンポジウム受付

13：00-13：05 開会挨拶・趣旨説明

13：05-13：50 講演1

椿山荘庭園の歴史

諸井宏益（緑化計画代表取締役）

13：50-14：35 講演2

椿山荘庭園の主な灯籠・石幢・層塔の紹介

鈴木崇（鈴木崇造園設計事務所代表）

14：35～15：20 講演3

山縣有朋の自然観と作庭観

渡邊美保子（職藝学院教授）

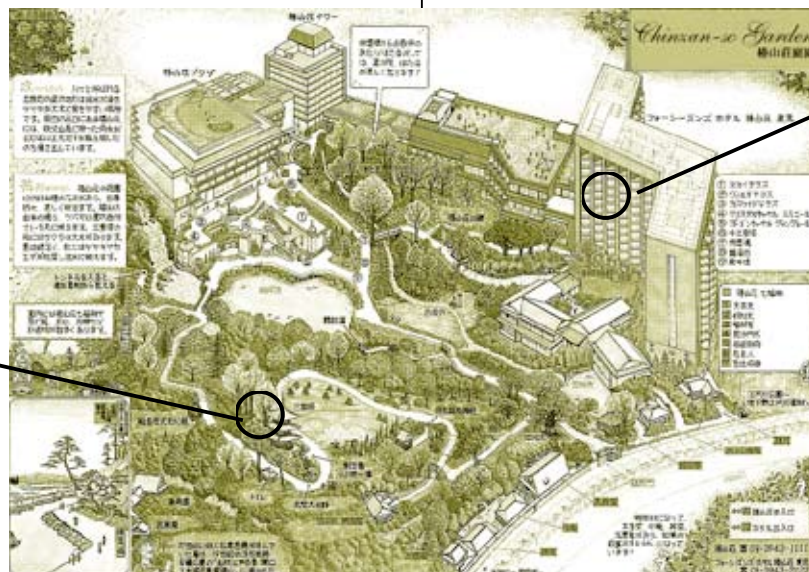
15：20～15：30 休憩

15：30～16：20 総合討論

座長・鈴木誠（東京農業大学造園科学科教授）・講演者

16：20～16：30 閉会挨拶

現地検討会受付



シンポジウム受付

ひょうごの名園を考える会

第5回研修会 太山寺の名園を巡る

兵庫県内にある数多くの名園の活用や保全を考えるために結成された『ひょうごの名園を考える会』では、庭や建物が国や兵庫県、神戸市の文化財に指定されている太山寺において研修会が実施される。今回は、日程の都合上参加申し込みは締め切られているため活動の紹介に留まるが、引き続き行われる研修活動が期待される。

日時：平成 24 年 5 月 26 日（土）

集合場所：太寺歓喜院

参加費：1,500 円（拝観料）

- 13:00 太山寺歓喜院庭園見学（神戸市指定名勝）
 13:45 太山寺本堂見学（国宝建築・重文美術工芸品）
 14:45 太山寺成就院庭園見学（兵庫県指定名勝）
 15:15 安養院見学（国指定名勝）
 15:45 総会・話し合い
 16:30 終了

事務局・連絡先

兵庫県淡路市野島常磐 954-2
 兵庫県立大学／淡路景観景観園芸学校
 林まゆみ研究室 内
 TEL/FAX 0799-82-3158
 e-mail hayashi@awaji.ac.jp

会費納入のお願い

平成 24 年度の会費納入のお願いを全会員に送付しております。納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入頂きますようお願いいたします。

表紙の写真

【椿山荘庭園】

■編集後記

本号では平成 24 年度全国大会のプログラムをお届けいたします。シンポジウム、研究発表会ははじめ充実した企画となりました。会員外の参加も歓迎いたします。多くのご参加を期待いたしております▼本学会ニュースも 70 号を迎えました。学会ニュースが現在の体裁となったのは、広報委員会が新しく設置された平成 18 年度の第 52 号からです。インタビューや書籍紹介、庭園探訪などのコーナーを設け、日本庭園学会の魅力をより多くの方に広報すべく工夫してまいりました▼本年度は経費削減のため、ページを縮小してお届けすることになり心苦しく思っておりましたが、先日の理事会で再び広報に力をそそぐこととなりました▼次号からは新メンバーによる広報委員会がスタートし、ホームページ・学会ニュースともリニューアルされる予定です。デザインや記事について、ぜひご意見・ご要望をお寄せください。なお 52 号以降の学会ニュースのバックナンバーは日本庭園学会ホームページでご覧になれます▼この 6 年間、ご愛読いただきありがとうございます。引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます（TN）

■学会ニュースへの投稿や、本誌「学会ニュース」やホームページ作成に興味があるという方は、下記宛に郵送または FAX にてご連絡頂けますよう、よろしくお願い致します。

〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116
 京都造形芸術大学日本庭園研究センター 気付
 日本庭園学会 広報委員会「学会ニュース」係
 FAX(075)791-9342

編集長／仲 隆裕 編集・構成／今江 秀史

協力／栗野 隆

日本庭園学会広報委員会

〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116
 京都造形芸術大学日本庭園研究センター 気付
 日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342